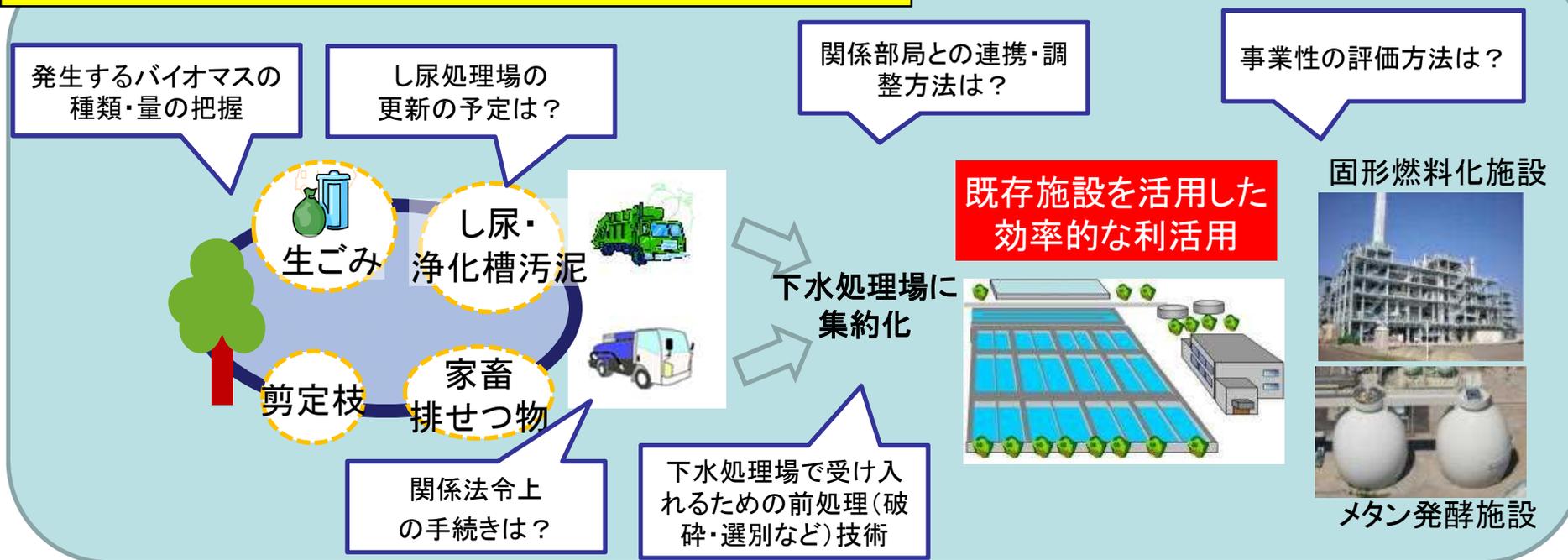


下水処理場における地域バイオマス利活用について

- 地域で発生する生ごみ、し尿、剪定枝、家畜排せつ物等のバイオマスを、既存の下水処理場の容量を活用して集約処理することで、下水道事業の安定的な運営、スケールメリットを生かした地域資源の有効利用が可能となる。
- 例えば、し尿処理場等の老朽化のタイミングと合わせて下水処理場へ受け入れることで、下水汚泥及びし尿処理を一体的に実施することで、施設整備費の削減が期待される。

地域バイオマスの集約化のイメージと検討課題



・ 地域のバイオマスとの集約処理により、処理コストを低減

・ スケールメリットを活かした効率的な下水汚泥等のエネルギー化・肥料化